

岩手県山田町での検証(H24.7.23.)

①園の地域特性を考慮した避難訓練・マニュアルの見直し

避難場所は屋内、保護者が分かり易い場所、迎えに来やすい場所を選ぶ。
電気機器は頼らず、肉声で避難訓練を行う。
命を守ることを優先し、安易に園児を保護者に返さない。一緒に避難する。
メールの連絡網は停電の際は使えない。

②子どものことを優先すれば被災後即地域の避難所へ移動ではなく、可能な限り慣れた保育園で過ごすことを前提とした環境作り・備品の確保

避難所へ避難するも、地域の避難者で一杯なため保育園に戻る。
→結果的に保育園が指定避難所になる。
避難車が使えない。→職員全員分の『おんぶひも』
備品の理想は3日間。アルファ米、缶詰が良かった。
保育士派遣によって子ども達が元気をもらった。
水・おむつ・ティッシュなど日用消耗品が不足した。
園児も職員もトイレに対する備えは大事。
非常時の際、子どもにとって日々変わらない生活が心を安定させる。
職員体制、職員の精神的なフォロー。
震災後子ども達の虫歯が増えた。避難時の食べるタイミング、歯磨き実施。



※豊間根保育園での訪問の様子

③地域における乳幼児の避難所としての立場を想定し、地域の防災拠点としての備える必要

正規職員は保育を、臨時の職員は避難所の仕事をした。
避難所を運営する困難がある。(24時間、様々な人の受入)
避難所として子どもがいる家庭を優先的に受け入れた。
避難者の方が子どもをみてくれた。
避難所になる＝施設の被害が少なかった。本体の園児は通園を自粛した。
地域の人には子どもを保育園に預けて、復旧の作業をしたい。
避難所に指定されることで支援物資が届く。(山田第一は後から指定を受ける、豊間根は震災直後から)
夏祭りを開催することに不安もあったが、結果地域の人に元気を与えることができた。



※避難所の様子

④災害時に互いに助け合い支援力を生み出せるネットワーク作り

保育園職員は自分の家庭のことより仕事を優先してやっていた。(結局保育士も被災者)→保育士派遣はすごく有り難かった。
ボランティア委員会を設置した

⑤課題提起に含まれない特記事項(または全項目に関連する事項)

公設民営のため公の仕事をする必要があった。
被災した状況でも仕事があることで心の支えになった。
想定外を想定する訓練の必要性、それが出来るようになるための視野の広さを持つこと。
同じ地域でも個々で受けている被害の差は大きく、それを予想することは難しい。